

ごみを減らそう!!

— 京都市ごみ減量推進会議 —

No.38 2008.12



施設見学会

第一回10月9日(木) 第二回12月2日(火)



味の素(株)にある
東海バードサンクチュアリを見学

リサイクル施設の説明に
耳を傾ける参加者



シンボルでもあるソーラーパネルの前での集合写真

地域活動実行委員会と京都市ごみ減量めぐくん推進友の会が合同で施設見学会を開催しました。

第一回目の先行は、「大栄環境グループ・三重中央開発(株)」と、「味の素(株)・東海営業所」です。定員を大幅に上回るお申し込みがあり、受付時から会員の関心の高さが伺えました。三重中央開発では、リサイクルシステムについて知識を深めるとともに、ただ、ごみを処分するのではなく、緑化活動や地域の活性化、こども達への教育に、いかに貢献できるのかを考え、活動している姿勢についても学ぶことができました。

第二回目の先行は岐阜羽島駅付近を通過する新幹線の車内からも目に入る、大きな箱舟の形をしたソーラーパネルが印象的な施設「ソーラーアーク太陽電池科学館」です。12月とは思えない暖かい気候のもと、屋内外の見学を通し、太陽熱という自然の恵みや、その力を改めて感じることができました。

施設見学会で学んだこと、感じたことを是非これからの活動に活かして欲しいと、山内委員長からのご挨拶にもありましたが、参加者の今後のさらなる活躍に期待したいと思います。

放送「もっぺんパラダイス！」

10月1日～12月31日(毎週水曜)

京都市内の修理やリメイクに携わる店舗約120店を検索できるサイト「もっぺん」。その「もっぺん」に掲載されているお店の情報や、ごみ減らしの知恵を紹介するラジオ番組「もっぺんパラダイス」を放送しています。各店舗のお話を伺うのは、京都Rに所属する大学生の岩村さんと真野さん。「収録は緊張します！」と言いながらも、明るく元気な声で楽しいおしゃべりを展開して下さいます。



左から京都Rに所属する真野さん(同志社女子大学3年生)、岩村さん(同志社女子大学3年生)、大井さん(京都府立大学1年生)、事務局 野村

「もっぺんパラダイス！」

◆FM797京都三条ラジオカフェで
毎週水曜日午前8:30-8:45
(2008年10月1日～12月31日)

◆放送を聞けなかった方は、下記URLからホームページにアクセスしてください。放送内容をご覧いただけます。

もっぺんパラダイス

<http://moppen.seesaa.net>



収録風景 プラスワン醍醐店の
小林さんにお話を伺う

1カ月のアクセス数
7,000件突破しました!



◆京都のお直し屋さんの
検索はもっぺんへ

<http://www.moppen-kyoto.com>

平成20年度 公募型パートナーシップ ～第二次募集～採択事業のご紹介

京都市ごみ減量推進会議では、市民の皆様によるごみ減量・リサイクルに関する企画・取組等を支援するため、有料指定袋収入を活用し、「市民公募型パートナーシップ事業」を実施しています。6月の第一次採択に引き続き、去る11月22日の審査会を経て下記6事業が採択されましたので、ご紹介します。

【事業名：京に使い捨ては似合わない～器も中身も楽しもう】

◆団体名：FoE京都

ファーストフードやコーヒーショップチェーンのリユース食器使用調査を行い、ホームページや、事業者を交えたフォーラムで結果を公表。また、リユース食器の取組が進んでいない店舗にとって取組のヒントとなるような情報も提供し、リユース食器の使用促進を図る。

【事業名：“繊維リサイクルモデル都市京都”構築に関する啓発活動(衣服の3Rマンガの作成)】

◆団体名：京都工芸繊維大学・繊維リサイクル技術研究センター

衣服ごみについてのマンガを作成し配布することで、服を長く大切に使うこと、リユースの取組や、繊維リサイクルの現状等を広く知らせ、衣服の3Rを促進する。

【事業名：児童館で取り組むエコ活動】

◆団体名：社団法人 京都市児童館学童連盟

毎月16日のDo you Kyoto dayに、小学生を対象に環境教育や実践活動を、乳幼児親子を対象にしたファミリーエコサロンではエコバックの作成やエコクッキング、フリーマーケット等を行う。

【事業名：木屋町情熱劇場 (リユース・コース)】

◆団体名：STARLIGHT STAGE

廃校という会場の「リユース」、 「リユース」をテーマにした演劇・落語等のワークショップや、イベントの開催を通し、楽しくリユースについて知ってもらおう。



審査会の様子

【事業名：冊子「エコ地蔵盆のすすめ(仮)」の作成】

◆団体名：特定非営利活動法人 環境市民

地蔵盆にごみ減量をはじめとする環境負荷低減の取組を盛り込んで行う、“エコ地蔵盆”。そのエコ地蔵盆を紹介する冊子を作成し、地域や町内会に働きかけ、エコ地蔵盆を広めることで、ごみの減量を図る。

【事業名：LIVE！京都議定書バースデー ～Do you Kyoto? Yes, 3R!～】

◆団体名：LIVE！京都議定書バースデー実行委員会

京都議定書イベントやウォーキングイベント、自治会等と連携し、3Rをテーマにした音楽ライブやリユースフリーマーケットを開催。3Rの啓発を行う。

「町の道標」

右京区太秦安井。比較的小規模な住宅が整然と軒を寄せあい、下町の風情をかもし出す街並の一角にてぐち米穀店さんはある。

店先にまず目につくのは米ならぬ石けん。廃油から作られたものであることが一目でわかる。ご近所さん達がせっせと天ぷら油を運び込む。集められた廃油を石けんに変えていくのはぐち米穀店の出口洋司さん。“一人石けん運動”自身の事をそう呼ぶ出口さんの活動は早や15年にもなる。集められた廃油の量は半端ではなく、京都市にもバイオディーゼル燃料として送り込む。

彼の活動の動機は合成洗剤に由来する。

さまざまところで使われる合成洗剤は石油を原料とし、高温高压がまの中で製造されるのでなかなか分解せず、水環境にも長く残り、私たちの人体にも口から皮膚から浸入し、影響を与える。

お茶碗を合成洗剤で洗う。そこにご飯が盛られ、みんなの口に入っていく。「口の中に入るものは安全なものでありたい。水を汚すことも避けたい。」

食を預かるものの使命が当然のように彼を動かした。「石けんいりませんか？天ぷら油でつくってます。」この店先での何げないやりとりが地域の輪を広げた。

「さあ、石けんを使おうなどと声高に言うとお客さんは引いていく。さりげなく機会がある毎に安全性については話すことにしている。」

この気軽さがうけた。そのうち「いつもありがとう。」の声が出口さんに向けられていく。そのやりとりがとでもうれいしと出口さん。

一人のボランティア活動が続けられるのは何よりあたたかいお客さんとの絆が肌で感じられるからであろう。

石けんは1回につき500～1000個は作り続ける。

家庭でも3.9Lの天ぷら油で作ったら40個程作れるから半年分ぐらいいは出来るという。

出口さんは、暇を見つけては石けんづくりにいそしむ。無理はしない。

「飽きはしませんよ。これはもう趣味ですから」と屈託なく笑う。

出口さんは市民運動家ではない。では誰かという「コミュニティのおじさん」と見た。

米を販売する。すなわち人々の安全な食を気遣う。地域の健康な暮らしを思いやる。

そんな“町のおやじ”なのだろうと。だからこそ、人々が天ぷら油を持って彼のもとにやってくる。ありがたいの気持ちと共に。

これはまさに企業のCSR（社会的責任）活動。

どこかの企業に聞かせてやりたい話である。

出口さん、今日もお気に入りのミニカーで配達にまわる。天ぷら油の回収を兼ねて。

あなたはきっと「町の道標（みちしるべ）」なのです。これから、この町が「明日のために良いこと」をどんどん考えていく、その為の“みちしるべ”でいて下さい。



取材：大橋 正明

シリーズ 会員 探訪

市民団体、事業所、各種事業者団体、専門家など、多彩な顔ぶれで構成される京都市ごみ減量推進会議。今回は、NPO法人 木野環境の活動を取材しました。

NPO法人 木野環境

所在地: 〒606-8335 京都市左京区岡崎天王町36
TEL:075-751-0289 FAX:075-751-0284
HP: www.kino-eco.or.jp
代表理事: 齋藤友宣
設立: 2000年4月
事務所: 本部 1
支援組織: 80社を超える
事業概要: 環境マネジメントシステムの構築支援、調査研究事業や市民活動事業などのコンサルタント・コーディネート事業。

NPO法人 木野環境

Q 木野環境が発足したエピソードは?

A 今から8年前、京都精華大学人文学部の学生であった私は、同期の丸谷さんと共同してISO14001※1の研究をしていました。当時は、ISOの取得には高額な費用が掛かり、情報不足も手伝って、中小企業や小さな組織体における取得は進んでいませんでした。そこで、安心価格で環境取組の輪を広げていきたいと、ISO14001の取得のお手伝いや、環境活動をサポートし、持続可能な社会の実現を目的としたNPO法人木野環境を発足させました。

Q 木野環境の事業内容を教えてください。

A ISO14001をはじめとした環境マネジメントシステムの構築支援に加え、企業・自治体の環境活動のための調査研究を行う調査研究事業や、持続可能な社会のモデルを模索するための市民活動事業など、3つの柱を中心に事業展開をしています。最近では、他団体と共同で家電製品に表示する省エネラベルの取組を進めたり、京都市ごみ減量推進会議、京都硝子壺問屋協同組合と協同してリユース（リターナブル）びんの普及と回収方法についての調査研究を行っています。

Q 持続可能な社会構築の輪を広げていくには?

A 環境に良い取組だと分かっているけど、社会の仕組みを変えることは大変難しいものです。みんなが環境問題に興味を持つことが望ましいのですが、あまり関心を持たない方でも普段どおりの生活を送るだけで環境配慮方の生活になっている、そんな仕組みを作っていきたいと思っています。

Q ごみ減量を進める、具体的な行動提案をお願いします。

A ビールびんや一升びんは洗って何度も使うことで、環境負荷を減らすことができます。ビールを買う時は、缶よりもびんで、調味料はペットボトルよりも一升びんで。ごみを出した後も、たくさんの人の手が掛かります。ごみの行方を考えることで、ごみに愛着が湧くのではないのでしょうか。

Q 今後のプロジェクトについて教えてください。

A 現在ではペットボトルでの販売が主流になったお茶を、リユースびんに詰めて売り出そうという“茶びん”プロジェクトを、京都硝子壺問屋協同組合と一緒に進めています。京都府庁生協や京都精華大学では常時販売を予定しています。今後は、“茶びん”の良さをアピールしながら、販売店の拡大、びんの回収方法などの課題をクリアしつつ、生産量を増やしていきたいと考えています。



閑静な住宅街の一角にある木野環境は、雨水タンクが目印です。



代表理事の齋藤友宣さん、新発売ほうじ茶飲料“茶びん”とツーショット！

現在、4人の専従スタッフで活動している事務所は、とても充実した雰囲気であった。近い将来、環境の専門家を目指す学生や社会人が、もっと身近に環境NPOに就職し、活躍できる仕組みが確立することを期待したい。

取材：松村 香代子

※1 ISO14001

1992年の地球サミットを受けて、ISO（国際標準化機構）では、環境マネジメントに関わる様々な規格の検討を開始。1996年に発行されたISO14001には「環境マネジメントシステムの仕様」が定められており、企業が作る製品の仕様や業務の手順が各国で一定でないため、基本的な部分は共通化しようという目的で定められたもの。規格には法的な拘束力はなく、規格に沿った取組をするかどうかは、企業の自主的な判断に委ねられている。

リユースびん

人が集まる賑やかな年末年始の宴の場で、また、贈り物としても登場する一升びんのお酒やビールびん。これら“びん”が多く排出される季節となりました。

既にごみ減量に取り組んでいただいている方には馴染みのある言葉ではありますが、リユース（リターナブル、再生）びんとは、一升びんやビールびんに代表される、洗って繰り返し使えるびんのことを指します。空になったリユースびんを酒屋さんなど買ったところに返せば、きれいに洗ってまた使うことが出来ます。リユースびんはゴミにならず、CO2も減らせる「容器の優等生」です。

ところが、このリユースびんを京都市の資源回収に出すと、欠けてしまうことが多く、そのまま洗って使うことは出来ません。割れたびんは、費用とエネルギーを使ってリサイクルされ、びんの原料となりますが、よ

れのはなはだしい場合は埋め立てられることもあります。

また、リユースびん回収ボックスに、リユースびん以外のびんが入られることも多く、リユースびん回収の妨げになっています。右記のリユースびんマークを参照に、リユースびんは洗って購入されたお店又は回収ボックスへ、それ以外のびんは資源ごみへ、と正しい排出にご協力下さい。またお買い物の際は、リユースびんの方が地球に優しいということを心に留めておいて下さい。

●お近くのリユースびん回収拠点はこちらからお探しいただけます。

http://web.kyoto-inet.or.jp/org/gomigen/reuse_bin

●リユースびん
一升びん、ビールびん、その他右記のリユースマークがついているびん



re-use
何度も回収・再使用



ごみ減 地域活動レポート

【ごみを少しでも減らしたい、その 想いが原動力 永松ごみ減量推進会議】

賑やかな四条通りから高瀬川沿いに歩くと、趣のある町並みの中に仏光寺公園が見えてくる。

月に1度の使用済み天ぷら油の回収日には、ペットボトルや缶に入った約40ℓもの油が回収される。持参してくれた方には、“おおきに”の感謝の気持ちと、めぐレットペーパー（学乳パックをリサイクルしたトイレットペーパー）1個をお渡しし、次回の協力を呼び掛ける。

天ぷら油の回収は平成17年から始まり、永松ごみ減量推進会議を立上げたのは平成19年9月。活動を続けることで、天ぷら油回収の大切さについて少しずつ認知されてきた。町委員さんの協力を得て、毎月の回収日の案内を18町内全てに掲示している。

会長の八木さんは、保健協議会の会長でもあり、20年以上に渡って地域活動に貢献されてきた。会長を支える三役や委員の方との連携も強く、回収のための準備から後片付けまで、てきぱきとこなしておられるのが印象的であった。

永松ごみ減量推進会議では、天ぷら油の他にも新聞やダンボール、古着などを毎週回収しており、月1回は木屋町会が中心となって高瀬川周辺の清掃活動も続けている。「大きなことはできないが、少しでもごみを出さないように、できることから協力させてもらっています。」

立地の良さも手伝い、マンション群が増え続ける永松学区。地元の住民とマンションの住民との顔の見えない関係が拡大している。今後は、市やマンション管理人の協力を得ながら、資源回収にもっと積極的に参加してもらえよう呼び掛けていきたい。

取材日：平成20年11月4日

取材：松村 香代子



右から、前川副会長、八木会長、渡辺会計、坂東会計監査、仲井委員

◆会長：八木 昌子 ◆発足：平成19年9月
◆学区世帯数：約810世帯
◆使用済み天ぷら油の回収：月1回第1火曜



回収風景

NEWS

2008年

*10月の出来事

- 10月3日(金) 2R型エコタウン構築事業実行委員会
- 10月8日(水) 第一回企業向け実践講座 「“3R”で社内をリードできますか？」
- 10月9日(木) 地域ごみ減量推進会議 施設見学会
- 10月12日(日) 第一回 リペア・リメイク講座の開催
- 10月13日(祝) 市役所前フリーマ ECOES KYOTO RADIO DAYと共催イベント
- 10月18日(土) 上京区民ふれあいまつり 啓発ブース出展
- 10月19日(日) 深草ふれあいプラザ 啓発ブース出展
- 10月24日(金) 第二回企業向け実践講座 「製品を通じてのCSR～LCA、カーボンフットプリントを中心に～」
- 10月25日(土) 京都やんちゃフェスタ 啓発ブース出展
- 10月26日(日) 中京区民ふれあいまつり 啓発ブース出展
- 10月27日(月)～11月1日(土) 出町商店街榎形地区におけるエコスタンプ事業



*11月の出来事

- 11月2日(日) 右京区民ふれあいフェスティバル 啓発ブース出展
- 11月4日(火) 2R型エコタウン構築事業実行委員会
- 11月5日(水) 地域ごみ減量推進会議 3R講習会
- 11月9日(日) 南区民ふれあいまつり・下京区民ふれあいひろば 啓発ブース出展 市役所前フリーマ
- 11月15日(土) 西京区民ふれあいまつり 啓発ブース出展
- 11月21日(金) 買い物袋持参キャンペーン(カナート洛北)
- 11月22日(土) 市民公募型パートナーシップ事業審査会 第二回リペア・リメイク講座の開催
- 11月23日(祝) ふれあい“やましな”区民まつり・伏見西部ふれあいプラザ 啓発ブース出展 市役所前フリーマ
- 11月26日(水) 第三回企業向け実践講座「近未来を映すゼロエミッションハウス～省エネルギー、新エネルギーの最先端～」

*12月の出来事

- 12月2日(火) 地域ごみ減量推進会議 施設見学会
- 12月7日(日) 市役所前フリーマ
- 12月13日(土)・14日(日) 京都環境フェスティバル 啓発ブース出展

*1月の予定

- 1月18日(日) 市役所前フリーマ *雨天の場合は1月25日(日)
- 1月20日(火) 理事会

*2月の予定

- 2月8日(日) 市役所前フリーマ *雨天の場合は2月15日(日)

京都市ごみ減量推進会議会報誌 ごみを減らそう！ No.38

〒612-0031 京都市伏見区深草池ノ内町13
京エコロジーセンター活動支援室内
TEL：075-647-3444/FAX：075-641-2971
E-mail：gomigen@mbox.kyoto-inet.or.jp

URL：http://web.kyoto-inet.or.jp/org/gomigen/index.html

🔍 ゴミゲン・ネット

🔍 検索 で検索出来ます

【入会のご案内】

京都市ごみ減量推進会議は、京都市のごみを減らし、環境を大切にしたいと暮らしの実現に寄与することを目的として、市民団体、事業者、行政により1996年11月に設立した団体です。パートナーシップで多彩な活動を展開中。京都市ごみ減量推進会議では、ともに活動をする会員を募っています。

詳細は、事務局へ問い合わせください。TEL:075-647-3444

企画編集：京都市ごみ減量推進会議 普及啓発実行委員会
(会報誌・ホームページ小委員会)